

～アクティブ・ラーニングで「知識」を「実践力」につなげる～ 社会を生き抜く「力」を養成

九州の女子大初の学部「現代社会学部」がスタート

筑紫女学園大学

「ICT技術の発展」「技術革新による社会環境変化」「グローバル化の進展による新たな価値観の創造」…急速に変化する現代社会の中で、本当に必要な「力」とは何か。昨年12月末の中央教育審議会答申でも「新たな時代に対応するための教育の在り方を見いだすことが不可欠である」とされ、中でも「主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し、解を見いだしていく能動的学修」、アクティブ・ラーニングへの注目が高まっている。

今後、加速すると思われるこの流れについて、来年度から九州の女子大としては初めての「現代社会学部」を開設し、学部全体として「アクティブ・ラーニング」に取り組む、筑紫女学園大学（福岡県太宰府市）の若原道昭学長に聞いた。

聞き手：財界九州企画編集部 窪田隆二氏

若原道昭学長に聞く



中教審答申の背景にある「教育の質的転換」

4月に現代社会学部が新設されます。その意義や特徴などを教えてください。

若原 本学は1965年開設の短期大学を基礎として、88年の開設以来、変化する時代の中で女性にとっての教養教育とは何かということを中心に、福岡の地で発信し続けてきました。短期大学を含め、これまでの幅広い職業人と専門的職業人養成の成果は、福岡をはじめ全国で活躍する約4万人の卒業生の姿に現れています。一方で私たちを取り巻く社会環境は、近年まれにみるスピードで変化

地元企業との産学連携プロジェクトを開始

筑紫女学園大学では、福岡中小企業経営者協会や民間企業とのタイアップにより、インターンシップを通じた学生の就業体験機会の醸成に積極的に取り組んでいる。

1月末には、アイ・ケイ・ケイ株式会社（佐賀県伊万里市）と株式会社スターフライヤー（福岡県北九州市）との間で産学連携協定を締結し、より能動的な「課題解決型プロジェクト」に学生を参加させる。両社からそれぞれ提示される具体的な課題について、学生は各担当者や意見交換しながら、企業の現場に赴いて就業体験を行い、最終的には独自の視点からのプレゼンテーションまで行う。

学生は自分たち自身で課題解決を模索し、その意見が反映されることで、一段と就業意識が高まることになる。例年、高い就職率を誇る筑紫女学園大学。さらに実践力のある人材育成が期待される。



震災の復興支援ボランティア研修を実施



筑紫女学園大学では、東日本大震災の発生直後から、多くの学生ボランティアが定期的に被災地へ赴き、現地の皆さんとの傾聴を通じた対話や食事の炊き出し、地元の大学生との交流などを行っている。発端は震災直後に「東北で復興支援ボランティアをしたい」という学生の声に対して、大学側がすぐに応じたこと。これまで3回のボランティア研修に参加した学生は「報道を通してではなく、直接被災者の方々と目を合わせ、声を聞き、そして何より、たくさんの笑顔に触れることができた。本当に行ってよかった」と話す。また、他の学生は「1度行って終わりではなく、つながりを持ち続けることが大事だと感じた。これからも続けていきたい」と感想を述べている。

「アクティブ・ラーニングで変わる学生」
学生はどのように変わるのでしょうか。

若原 アクティブ・ラーニングと一口に言っても、さまざまなスタイルがあります。例えば教員が学生に対し、あなた

「アクティブ・ラーニングで変わる学生」
どう思うかとコメントを求め、新たな施設「CJCO MONS」についても併設されました。その目的は。

若原 アクティブ・ラーニングを実践する環境整備の一環として、新たな施設「CJCO MONS」をオープンさせました。本学には二つの図書館があります



最新の図書館「ラーニング・commons」
昨年、既設の図書館をリニューアルされ、新たに学習支援センターも併設されました。その目的は。

「ICT技術の発展」「技術革新による社会環境変化」「グローバル化の進展による新たな価値観の創造」…急速に変化する現代社会の中で、本当に必要な「力」とは何か。

また、現在の大学3年生からは、新たな採用選考に関する指針に基づき企業などへの就職活動が実施されますが、実質的な活動期間の短縮により、単なる就業体験に終わらない、本当に価値のあるインターンシッププログラムの必要性も高まること

福岡で、学ぶ。



LADY GOGO

2015年4月 九州の女子大初

現代社会学部 新設

- 「ビジネス社会」コース
- 「メディア社会」コース
- 「環境共生社会」コース

筑紫女学園大学 〒818-0118 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1